

令和 6 年度 第 2 回多摩川プラン推進会議 議事録

1 開催日時 令和 7 年 3 月 3 日（月）午後 2 時～午後 3 時 30 分

2 開催場所 川崎市役所本庁舎 3 階 304 会議室

3 出席者（敬称略）

委員長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
副委員長	水庭 千鶴子	東京農業大学教授
委員	五十嵐 豊	NPO 法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	寺尾 祐一	NPO 法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	堀 良通	市民公募
委員	江原 和人	市民公募
委員	坂本 享彦	市民公募
委員	大野 智弘	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所事業対策官

4 議事

- (1) 令和 6 年度新多摩川プラン実施事業報告書について
- (2) 今後の多摩川プランのあり方について
- (3) 多摩川における取組の報告について
- (4) その他

5 配布資料

- ・ 次第
- ・ 令和 6 年度川崎市多摩川プラン推進会議委員名簿
- ・ 資料 1 令和 6 年度新多摩川プラン実施事業報告書【多摩川は今】（素案）
- ・ 資料 2 今後の多摩川プランのあり方について
- ・ 資料 3 多摩川の利用に関するアンケート調査（第 2 回）について
- ・ 資料 4 「国道 246 号橋脚水辺アート WS」を開催します！（報道発表資料）

6 公開又は非公開の別 公開

7 傍聴人の数 なし

8 発言の内容 次のとおり（要約方式）

—開会—

【事務局】（事務連絡・会議の成立に関する説明）

【緑政部長】（挨拶）

【吉富委員長】（傍聴人確認）

<議事(1) 令和6年度新多摩川プラン実施事業報告書について>

【事務局】（資料に基づき説明）

【堀委員】全体的な表記に関する指摘。1 ページ目「多摩川は今について」の説明文に関して。4 行目に本書とあるが、「この冊子」という書き方で良いのでは。

4 ページの①の二つ目の丸、「多摩川緊急治水対策プロジェクト」の 1 行目について。「令和元年度の東日本台風」とあるが、正式名称は「令和元年東日本台風」のため、そちらが適切。

5 ページの 3「子どもの生きる力を育む場の創造」の①「ふるさと資産、遺産」について、「神奈川県、東京都」は「神奈川県と東京都」とした方が分かりやすく、「渡しの場がかつて 70 か所」は「かつては 70 か所」とするのが適切。

6 ページの 1 番下の行にある「魚に手軽に触れ合える機会」という表現は、魚に触って遊ぶような印象を与えるため、ひらがな表記が適切。

【坂本委員】「多摩川プランの概要」という、新多摩川プランの前身にあたる資料が図書館にあり、そこでは鮎の経年観察について述べられている。ハゼ釣り大会やせせらぎ館の行事とともに、鮎の経年観察も少し入れると、プランに一貫性が出るのでは。また、「多摩鮎」というブランド鮎の展開予定もあるため、それも加えた方が良いかもしれない。

【事務局】環境局で生物多様性戦略という計画を所管しており、そこから出ている広報誌等で確認を取りたい。鮎に特化した施策は、プランの 100 の施策に位置づけられていない。

【坂本委員】この会議は川崎市が中心だが、国が主導する多摩川の有識者会議では、毎年鮎の放流が行われており、鮎が遡上・産卵し、稚鮎が戻ってくることも確認されている。この事業の継続年数は不明だが、かなりの成果が出ているため、その点を強調すべきだと考える。

【吉富委員長】多摩川プランではアユに焦点を当てて議論していたが、新多摩川プランでは生物多様性の観点から広くさまざまな魚種を対象にするようになった可能性がある。その経緯については議事録を確認すれば理由が分かるかもしれない。

【小野委員】様々なイベントを開催しているので、参加者の声などを報告書に記載してもいいのでは。

【事務局】参加者の声については、水たまキッズや丸子橋のイベントなどでアンケートを取っており、参加者の感想はイベントの来場促進にもつながるため、出来る限り掲載していく方針。

【寺尾委員】8 ページの「多摩川ふれあいロード」について。路面標示について、川崎区の殿町付近では標示が消えているところがある。ほとんど読めないところもあるため、予算の関係もあると思うが、しっかり修復して欲しい。

【事務局】対応としては、予算の範囲内で最も摩耗や劣化がひどく、かつ利用者の多いところから優先的に修復している。この会議でも毎回指摘を頂戴しているため、予算の拡充も含めて引き続き検討する。

【江原委員】アンケートを取っているイベントでは、その集約結果や参加者の声を QR コードで表示すれば、紙面も圧迫しないため、もっと活用した方が良い。

冊子は小学校や図書館などに配布しているが、数量に限りがあるため、ホームページや SNS を活用して、能動的に発信できる仕組みを作ってほしい。緑化フェアについても SNS で発信し、この取組を広く知ってもらう方法を検討すべきだ。

【事務局】これまでのアンケートはニーズ調査や陳情内容の把握が目的だった。紙面に掲載する場合、アンケート結果を「多摩川は今」や機関誌に使用する可能性があることについて承諾を得る必要がある。本日の意見を踏まえ、アンケートの実施方法や参加者の声の反映方法、SNS の活用についても事務局で整理したい。

【目黒委員】目次にある多摩川の緑地の記載について。緑地で何をやっているかがわかりにくい。緑地の活用状況が分かれば、住民のイベント来場促進や、役所に意見を伝えやすくなるのでは。下流側にグラウンドがあるのは分かるが、上流側はせせらぎ館くらいしか知られていない。グラウンドやイベントのある緑地がどこにあるか工夫すれば、1 ページ目から使いやすい冊子になると思う。

【事務局】確かに場所の名前だけでなく、具体的にどんな活動が行われているのか、もう少し情報があるとより分かりやすくなると思う。現状は「環境学習拠点施設」と「多摩川緑地」という2つの判例のみのため、検討する。

【水庭副委員長】目次の隣のページについて、ネット上に投稿するなら、活動内容が確認できる QR コードなどを作ると良いと思う。情報量が多いため、紙面には載せきれないが、年間スケジュールを載せると便利かもしれない。終わったイベントも含めて、その年度の活動を一覧でまとめて示すとわかりやすいのではないかな。

【事務局】指摘通り、様々なイベントがあるにも関わらず、情報へのアクセスがしづらいという課題は事務局でも認識している。今年度実施している緑化フェアのために作成したホームページを、緑政部が引き継ぐ予定となっているため、発信媒体について検討する。

<議事(2) 今後の多摩川プランのあり方について>

【事務局】(資料に基づき説明)

【吉富委員長】来年度は総括評価を行い、改定する計画の内容については今後議論する時間はあるが、本日はこの資料における今後の進め方について意見を頂きたい。

【坂本委員】多摩川水系河川整備計画について、計画変更の策定目標は具体的には明らかになっていないということだが、これはどこが決めるのか。また、水系の整備とは具体的に

はどんなものになるのか。

【事務局】こちらは国土交通省の所管計画になっており、この内容に即して多摩川プランを変更する必要があると考えている。

【大野委員】現在、川の工事に関して安全度を今後 20～30 年でどの程度達成すべきか検討している。基本的には、令和元年の台風で多摩川が被害を受けたため、同じような洪水に対しても十分に安全を確保することを目指して議論をしている。

また、水害だけでなく、水質や河川環境などの要素を含めた対策を検討している。

【事務局】この水系計画に基づき、多摩川の河川敷の利用が進められている点を補足したい。多摩川プランにおいて、多摩川やその周辺地域を広場・空間として利用できる点を注視しており、川崎市では土地の有効活用が進んでいるため、河川敷も魅力的な空間として活用できるよう、変更内容には注視していきたいと考えている。

【堀委員】以前から指摘してきたことだが、川崎市が関与している多摩川の部分は右岸で距離が短く、主に河川敷の利活用に焦点が当てられており、水害や環境問題には直接触れられていない。川崎市としては多摩川流域全体を視野に入れたアプローチが必要。川崎市には生田緑地などの自然が残っており、これを多摩川流域の一部としてどう活用し、環境整備を進めるかの発想が欠けていると感じている。次の多摩川プランでは、川崎市全体の流域を考慮に入れた発想を取り入れるべき。

【事務局】「多摩川は今」に掲載した通り、多摩川の治水や水循環を考慮しながら、計画の改定を進める。その改善にあたっては、関係者からの意見を受けて検討を行いたい。

【江原委員】多摩川流域の河川敷の利用について議論している中で、川崎市や国土交通省、県などの管轄が明確に区分されていないと、協力の進め方が見えにくい。

具体的には、国土交通省、川崎市、県の管轄区域や境界を図面化して明示し、その上で多摩川流域の活用方法を議論すべきでは。また流域だけでなく、河川や用水、緑化センターなどとの連携を考えた新しいプランが必要と考える。

【事務局】川崎市は河川敷の管理図面を持っているため、議論の際にその情報を共有し、管轄や境界を明確にして進めていきたい。また、多摩川水系における自然環境や川崎市内の河川がどのように繋がっているかについても検討し、勉強会を通じて工夫する。

【大野委員】河川管理は確かに分かりづらい部分がある。

令和元年の洪水をきっかけに、流域治水という考え方が重要視され、国交省全体でその方針を進めるようになった。

川崎市は以前から多摩川に積極的に取り組んでおり、これまでの河川法や許可の枠を超えて関わってきた。しかし、依然として混在している部分があり、国交省も固い部分もあるため、分かりづらい点も多い。今後も努力し続けるので、意見をいただければ組織内で展開する。

【吉富委員長】流域という概念が浸透していないため、一般の人々に多摩川の流域の形を理解しているか尋ねても、わからないことが多い。そのため、川崎市のエリアを広いスケールで捉えることが今後重要になる。視覚的に理解しやすい図を作成するなど、皆で共有

できるような作業が必要だと考える。

【小野委員】次期多摩川プランの基本理念の改定についてどのように考えているか。流域の話が出てきているので、基本理念の中に流域の要素を入れていくと、それを目指すということに繋がる。

極端な言い方だが、多摩川での活動を通じて、市民のウェルビーイングを向上させたり、全員を幸せにするような取り組みを進めたりするような流域の活動を盛り込んだメニューにしてみることで、理念のもとでの活動に一貫性が出るのではないかと考えている。

もう一点、プランとの整合性は確保されていると思うが、生物多様性の地域戦略のようなものも川崎市はいくつか持っているはずで、それを実現するためのプランとして、新多摩川プランにもそうした戦略的な要素を組み込むのが良いのではないかと思う。

【事務局】これまでは多摩川沿いの公園や河川敷の活用が主な議題だったが、流域の視点を取り入れることで、多摩川と内陸の緑がつながり、市民の利用機会を増やせる可能性がある。こうした視点を盛り込んだプランニングができれば、多摩川に関わる市民が増え、影響範囲も広がるものと思う。

また生物多様性についても、川だけで完結するものではなく、内陸の緑地を利用する動物もいるため、その視点も計画に組み込むべきと考える。資料には明記されていないが、緑の基本計画などと連携しながら検討し、議論を通じて整理していきたい。

【吉富委員長】この理念についても、今後の議論の中で検討してほしい。

【寺尾委員】次年度に向けて、過去の歴史的な背景を取り入れるのはどうか。前回の会議でも触れたが、例えばアミガサ事件や、羽田空港がかつて海水浴場だったこと、昭和47年の狹江水害の話などを盛り込むことで、より深みのある内容にできるのではないか。

【事務局】歴史資源も魅力を発信する手段の一つだと考えているが、現在「多摩川は今」などの情報発信媒体にはそうした枠がないのが現状。前々回から始めたコラムなどを活用し、過去の歴史から得られる魅力を発信する手段として考えていきたい。

【吉富委員長】委員会において、多摩川の歴史や河川整備に関することなどを学ぶための時間を設けることも必要だと思うので、事務局は検討をお願いしたい。

<議事(3) 多摩川における取組の報告について>

資料3 多摩川の利用に関するアンケート調査（第2回）関連

【事務局】（資料に基づき説明）

【堀委員】今回のアンケート設問には「水道・トイレの利用状況」という項目があるが、トイレの清潔さや匂いに関する設問が抜けているのではないか。また、回答者の属性で職業を聞いているのはどういう意図なのか。

【事務局】現時点の設問内容はまだ案の段階。多摩川の水道施設の課題に関する設問については、前回は定期的なアンケート実施を想定していなかったため、増水時の撤去や下水道整備の難しさなどを理解してもらう目的の内容を含めていた。しかし、第2回ではそうした設問を除き、「トイレを汚いと感じる理由」や「利用しない理由」など、より具体的

に課題を明確にする設問に変更する予定である。

回答者の属性に職業を含めているのは、サラリーマン・会社員といった勤務体系を持つ利用者は普段どの曜日に利用しているかなど、属性と利用に関する相関を測るために入れている。

【寺尾委員】川崎市と東京都の施設について、どちらを指標とすべきか。川崎の住民がマラソンをしながら東京に渡るケースもあるため、両方の施設を利用している場合がある。そのため、利用者の視点から施設の使い方を見直すことが重要だと考えられる。

【事務局】現在、川崎市が設置しているトイレは、大田区や世田谷区が設置しているトイレと同じ製品を使用しているが、川崎市のトイレが汚いと言われることは清掃頻度に差があることが原因と考えている。そのため今回の調査では、トイレが汚れている原因が清掃頻度にあるのかなどを確認し、その結果に基づいて利用者の使いやすさに繋がる要素を明らかにしたいと考えている。

【江原委員】トイレの利用回数が清潔さに影響する可能性があるため、アンケートには利用頻度に関する情報も含めるべきでは。例えば、少年野球などで子供たちが多く使うトイレは汚れやすいなども考えられるため、利用回数に基づいて清掃回数を増やすなどの対策も考えられる。そのため頻度に関するデータを収集することで、問題解決に繋がるのでは。

【事務局】トイレの利用回数には地区ごとの差があり、汲み取りタンクの容量から推測できる部分もある。重要な拠点は把握しているものの、まだ感覚的な根拠に頼っているのが現状。水洗ボタンの押下回数やドアの開閉の自動記録など、回数のデータ収集にはさまざまな方法があるが、そこまでコストをかけて実施する段階には至っていない。

【江原委員】費用問題などはあるが、たとえば頻繁に汲み取りが必要なエリア等は水洗式に切り替えるなどの考えはあるのか。

【事務局】現在設置しているトイレは簡易水洗式で少量の水で流すタイプだが、汚れが問題になるのはその製品自体の問題ではなく、清掃頻度が足りていない可能性が高い。そのため頻繁な清掃を行い、利用者が不快に感じないような環境を整えることが重要だと認識している。一方で水洗トイレの導入は、例えば瀬田地区のように下水道直結のポンプアップが必要で、その費用が莫大なため他の地区では実現が難しいという課題がある。

資料4 「国道 246 号橋脚水辺アート WS」を開催します！関連

【事務局】（資料に基づき説明）

【吉富委員長】アートワークショップについて、アーティストに対しては今回のイベントは多摩川プランの取り組みの一環という意図などは伝わっているのか。市民や子供たちのイメージをうまく反映するとともに、多摩川プランの意図をふまえて、アーティストがその全体をディレクションする形になることを期待している。

【事務局】アートについては、先月から調整が始まり、初期のラフ案には多摩川プランや全国都市緑化かわさきフェアの要素があまり反映されていなかったが、改めてアーティス

トに説明を行い、どのような作品が適切かを調整中である。

<議事(4) その他>

【事務局】 現在、多摩川での協働の取組について、緑化フェアを契機に PR 映像を制作中。協働の取組を多くの市民に知ってもらうため、事業紹介の動画を制作しており、春フェアの会場や市の YouTube チャンネルで公開する予定。動画は約 4 分程度。

【事務局】 (動画放映)

【事務局】 (事務連絡)

—閉会—